工芸ニュース

Vol.82
2019.3
Industrial Arts News

Contents

旭川工芸技術等継承事業　P1

地域の技術者から若手へ -家具・建具・窯業実習コース、座学コース-
地域の技術者からユーザーへ -市民向け講習会-

試験室だより　P3

椅子の強度を増すために-隅木の効果について-

テストピース焼成結果　P5

焼成条件の違いによる素地と釉調の変化

各種講習会・研修会　P6

親子木工体験教室/ものづくりサマーキャンプ/あさひかわ出前講座

各種展示会・イベント　P8

旭川デザインウイーク
22nd 旭川陶芸フェスティバル

その他　P9

技能五輪全国大会/JR 旭川駅「旭川家具ラウンジ」オープン/
製造業実態調査の概要報告/人事異動報告

旭川市工芸センター

旭川工芸技術等継承事業

地域の技術者から若手へ、ユーザーへ

旭川地域のみならず、全国・世界で活躍されている熟練技術者・経営者の方を講師に招き、実習・座学を開催しました。また、市民の皆さんに木工業界を知っていただくための講習会も開催しました。

「地域の技術者から若手へ、地域の技術者からユーザーへ」をキーワードに、今後もさらに事業を充実させていきます。

●家具実習コース（受講者：８名）

テーマ：指物製作技術
講　師：大門　嚴 氏（アートクラフトバウ工房 代表）

指物製作の手法について学ぶための実習を７回にわたり実施しました。

講師の技術を学ぶことができるよう、講師が設計したキャビネットを、無垢のカバ材を使い、製作の全工程にわたり実習を行い、木材加工及び木工デザインについて幅広く理解を深めました。

受講者からは、旭川地域を代表する木工作家である講師からのアドバイスは非常に参考になったとの声が多くありました。

実習中の講師と受講者

●建具実習コース（受講者：４名）

テーマ：伝統建具の製作技術
　　組子衝立の製作
講　師：髙木　均 氏（有限会社 杏和建具 代表）

伝統建具の製作技術を学ぶための実習を４回にわたり実施しました。今年は製品に見立てた衝立に組子をしつらえる「組子衝立」を製作しました。組子寸法の割り出し、機械加工、手加工など実践的な実習を行い、伝統建具製作の基礎について理解を深めました。

実習の様子

●窯業実習コース（受講者：８名）

テーマ：焼成条件の違いによる素地と釉調の変化
講　師：当センター職員

陶芸の最終工程であり、陶磁器の仕上がりを左右する重要な要素の一つである「焼成」をテーマに、日頃の作陶で使用する素地や釉薬が焼成条件によりどのように変化するか、また、これまでの焼成条件が最善であるかといった検証のほか、焼成条件により大きく釉調が変化する結晶釉に新たに取り組む足がかりとするなど、受講された方々が主体的に考え、様々な切り口からテストピース製作に取り組みました。

実習（釉薬の調合）

●**座学コース**（受講者：延べ８４名）

ものづくりに関する幅広い分野の知識習得を目的として、今年度は、「窯業技術継承」「椅子張技術」「他産地動向」「地元企業の取組」をテーマに、専門家を招へいし講習会を計４回開催しました。

①　半磁器土をベースとした顔料の練り込み技法
（受講者：８名）

講師：滝本　宣博 氏（理創夢工房 窯元）
概要・半磁器土と顔料の説明
・素地と顔料の配合比と混ぜ合わせ方
・練り込み素地によるろくろ挽き・削り実演
・受講者へのろくろ挽き指導

ろくろ実演

②　椅子張りの基礎技術（受講者：40 名）

講師：小林 重行 氏（東京都椅子張り工技能推進協議会）
概要・椅子張り業界の現状及び技能士に求められる能力
・椅子張り技術の変遷
・資材、道具の説明
・バネ吊り、ヘッシャンの被せ等の実演

椅子張りの実演

③　伝統工芸品「岩谷堂箪笥」と桜木家具店の取組
～震災から学んだこと～（受講者：１２名）

講師：高橋　勇樹 氏（有限会社桜木家具店 常務取締役）
概要・伝統工芸品「岩谷堂箪笥」の歴史
・伝統工芸品の販売手法
・震災時の状況と復興に向けての取組
・震災を経験して学んだことと今後の目標　など

講演の様子

④　株式会社コサイン創立 30 年の歩みから経験し学んだこと（受講者：24 名）

講師：星　幸一 氏（株式会社コサイン 代表取締役社長）
概要・コサイン設立から現在まで
・ＳＰＡ型「木工製品製造販売業」
・製品開発の手法
・これからの旭川家具について　など

講演の様子

座学コースには、お仕事でお疲れのところ毎回多くの方にご参加いただき、ありがとうございました。また、講師の方も、お忙しい中快く引き受けていただき、大変感謝しております。
次年度も、木工・窯業業界の発展に寄与できるように、ものづくりに関する様々なテーマで、講習会を企画、実施したいと思いますので、たくさんのご参加をお待ちしております。

●**市民向け講習会**（参加者：14 名）

地域の方々に地場の木製品を知っていただくため、見学ツアーと木製メジャースプーンを製作する「旭川木工体験ツアー」を開催しました。

実際に地域の木製品製造企業を見学し、直接作り手の話を聞くことによって、旭川の木製品の素晴らしさを知ることができました。見学後は工芸センターで木製メジャースプーンの加工体験を行いました。参加者からは、「大変満足している」、「今後も同様の講習会やイベントがあった場合には、積極的に参加していきたい」との声が多数聞かれたことから、地場産業への関心が高まったのではないかと思います。

見 学 先：株式会社ウッドパーツ、株式会社コサイン
加工体験：工芸センター

見学（株式会社ウッドパーツ）

見学（株式会社コサイン）

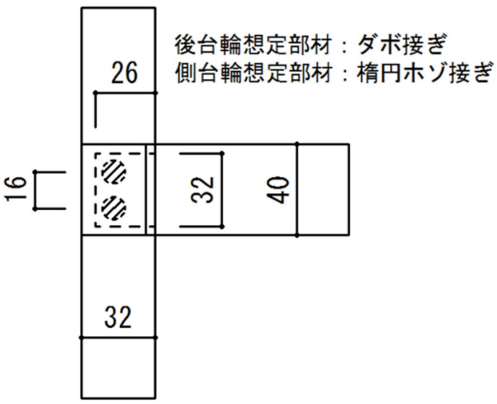
加工体験の様子

試験室だより

椅子の強度を増すために～隅木の効果について～

椅子の強度に関係する構造上の要素として「材料」「仕口」「接着」などがありますが、一体感を増し、接合部のねじれを抑える『隅木』も重要な部材の一つです。しかし、隅木の取付条件については、特に決まりがありません。そこで今回は、隅木の大きさ（せい高さ）や後脚からの取付距離等の違いが、強度に与える効果（影響）を検証してみました。

●供試体
（後脚、側・後台輪の接合部を想定）



隅木の取付条件（右図参照）

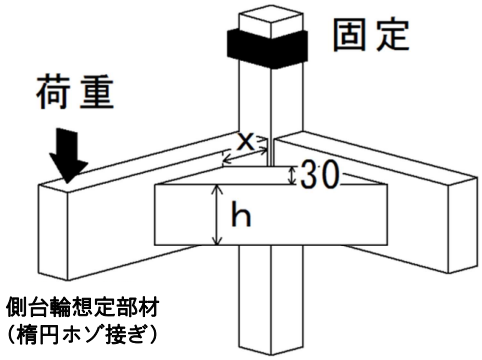
- 隅 木 の 厚 み：全て 30 ㎜
- せ い 高 さ：h
- 後脚からの距離：x

（h、x を任意の寸法で作成）
※隅木は台輪の高さ中央で取付

●試験方法
（後脚想定部材を固定し側台輪想定部材を押す）

供試体を治具にセットし、万能試験機にて破壊荷重等を求めた。

- 荷 重 速 度：3mm/分
- 荷 重 点：側台輪の胴付面から 165mm
- 供 試 体 数 量：供試体 1 種類につき 5 本



●測定結果（数値は各供試体の平均値で小数第２位を四捨五入）

供試体	せい高さ（h）	後脚からの距離（x）	木ネジ（段）	ホゾ抜け荷重（kgf）	最大荷重（kgf）
				（）内はＣを基準とした相対値	
A	隅木なし			59.8 (91%)	113.5 (94%)
B	20	20	1	74.0 (113%)	119.6 (99%)
C	**30**	**20**	**1**	**65.2 (100%)**	**120.5 (100%)**
D	30	5	1	78.6 (121%)	132.0 (110%)
E	30	35	1	65.4 (100%)	124.0 (103%)
F	40	20	1	75.6 (116%)	135.9 (113%)
G	40	20	2	82.8 (127%)	149.6 (124%)

＊ホゾ抜け荷重：ホゾ抜けにより破損し始めた荷重値
＊最 大 荷 重：接合部が完全に破壊した時の荷重値

※供試体Ｃ「せい高さ（ｈ）＝30 ㎜、後脚からの距離（ｘ）＝20 ㎜、木ネジ＝1 段」を基準（100%）と仮定し検証しました。

●試験結果から推測されること

①隅木のせい寸法：大きいほど強度が増す（比較対象：B、C、F）

せい（ｈ）の寸法では、40 ㎜は 30 ㎜と比較すると最大荷重値で 15.4kgf（13%）増となりましたが、30 ㎜と 20 ㎜では、予想と違いあまり変わらない結果となりました。

今回は、せいの寸法に着目して試験を行いましたが、厚み寸法によっても効果が変わる可能性があるので、せいと厚みの寸法条件を変えて検証を重ねたいと思います。

②後脚からの距離：近いほど強度が増す（比較対象：C、D、E）

後脚からの距離（ｘ）では、35 ㎜と 20 ㎜では大きな差はありませんでしたが、後脚に 5 ㎜まで近づけた供試体では 20 ㎜と比べると最大荷重値で 11.5kgf（10%）増、ホゾ抜け荷重値で 13.4kgf（21%）増となり一番強い結果となりました。このことから、後脚からの取付位置を近くすることで、接合部の拘束力が増し、強度の向上につながっているようです。

③固定用木ネジの段数：多いほど強度が増す（比較対象：F、G）

固定する木ネジの段数では、1 段から 2 段に増やすことで最大荷重値・ホゾ抜け荷重値ともに約 10%の強度増となりました。木ネジの段数を増やすことが、台輪接合部の動き（抜け）を抑えることに効果的だとわかりました。

◎まとめ

今回の試験において、椅子の強度面で隅木が果たしている効果を再確認することできました。

椅子のデザインや部材寸法によって隅木の大きさ等の条件は異なると思いますが、木ネジを 2 段にできるような「せい高さ」を確保するとともに、脚部からの取付位置に配慮することで、強度向上につなげていただきたいと思います。

工芸センターでは、各メーカーから椅子の強度試験依頼を受けていますが、最近の椅子は、台輪や脚に角度が付いていて、隅木の加工も難しくなっていると思います。さらに、デザイン的に「細く・薄く・軽く」という流れも感じ取れます。隅木の加工精度があまり良くない（台輪に密着せずに隙間がある）場合、試験時に異状が発生することが多いので、隅木の大きさ等の条件と共に、加工精度にも気をつけて製作することをお勧めします。最後に、この結果が、隅木について考える際の参考になれば幸いです。

テストピース焼成結果

焼成条件の違いによる素地と釉調の変化

焼成は陶芸の最終工程であり、陶磁器の仕上がりを左右する重要な要素の一つです。

今回は焼成条件の違いによる素地と釉調の変化について、受講された方々が日頃の作陶で課題に感じていることのほか、既に多くの文献に記されているものの、これまで実際に確認する機会がなかったことについても検証しました。その中でも大きな変化が現れたテストピースについて、一部ご紹介いたします。

1 釉薬の例：亜鉛結晶釉

(1)テストピース製作

①釉　　薬：［基礎釉］３号石灰釉 ＋ 亜鉛華(ZnO)外割 30%
　　［着色材］酸化ニッケル(NiO)外割 1.5%

②素　　地：半磁器（信楽新特漉）

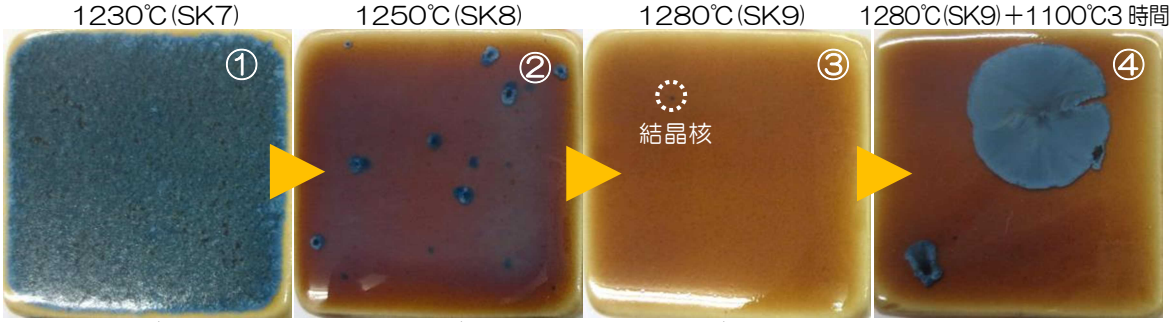
③焼成条件：10kw 電気炉使用　酸化焼成

a	最高温度	1230℃で 30 分保持		（SK7）
b	〃	1250℃	〃	（SK8）
c	〃	1280℃	〃	（SK9）
d	〃	1280℃	〃	（SK9）＋1100℃で３時間保持

(2)焼成結果

亜鉛結晶は通常、珪酸(SiO_2)とアルミナ(Al_2O_3)がともに少ない領域で得られるため、焼成時に流れやすい釉となります。ウィレマイト結晶($2ZnO \cdot SiO_2$)が析出し、今回は酸化ニッケル(NiO)の添加により、結晶部分は青色、その他の部分は茶色の発色となりました。

焼成条件の違いにより、次のとおり釉調が大きく変化することを確認しました。



細かい結晶が全面に析出　　結晶核が減少　　結晶核が更に減少　　少ない結晶核が大きく成長

定めた部分に結晶が析出

① 1230℃(SK7)では、青色の細かな無数の結晶がテストピースの全面を覆いました。

② 1250℃(SK8)に温度を上げることにより、結晶核の多くが溶け、透明感がある茶色の部分が広範囲に及びました。

③ 更に 1280℃(SK9)に温度を上げることにより一段と溶け、目視で確認できる青色の結晶核は１つのみとなりました。

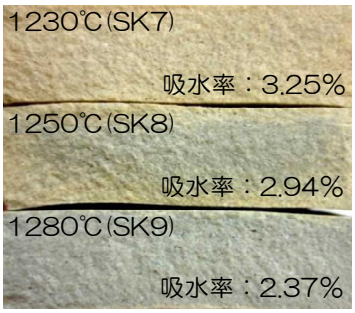
④ 1280℃(SK9)の高温で結晶核を減らした後、冷却を緩やかにするため 1100℃で３時間保持したところ、少ない結晶核が大きく成長し、アサガオのような美しい円形になりました。

⑤ ねらった位置に結晶を析出させるため、施釉後のテストピースに水で溶いた亜鉛華を筆で置いたところ、それを起点に結晶が現れることを確認しました。

2 素地の例：信楽並漉

(1)発色と吸水率

タイル状に焼成したものの吸水率測定と、破断面の発色を確認しました。



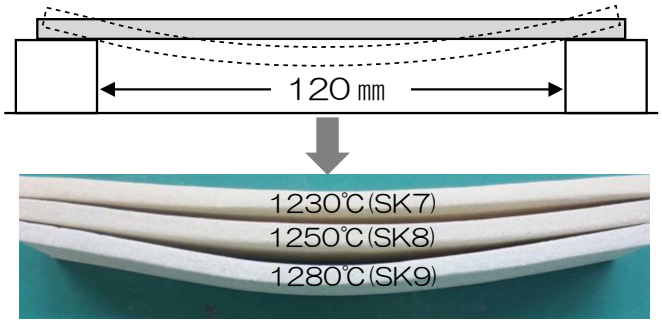
全体が黄色味を帯びている。

表面は黄色味、中心部は青味を帯びている。

全体が青味を帯びている。

(2) 変形

150×10×5 ㎜に成形した素地を 120 ㎜の間隔に渡した状態で焼成し、その変形を確認しました。



お気軽にどうぞ

テストピースのカラー画像は、工芸センターホームページの「工芸ニュース vol.82」でご覧いただけます。ここに掲載しているものはほんの一例です。他にも多数のテストピースがございますので、お気軽にお問合せください。直接お手に取ってご覧いただくことや、様々な釉薬の調合割合をお知らせすることも可能です。

親子木工体験教室

スツール-背のない椅子-を作ろう

市民の皆さんに旭川家具やクラフトなど、地域の木工産業への理解を深めてもらうため、冬休み期間中の１月１２日(土)に小学４年生から６年生の児童とその保護者を対象とした「親子木工体験教室」を開催し、１０組２０名の方が参加しました。

はじめに、旭川地域の木工産業の歴史や現在の活動、森の木から家具ができるまでを学んだ後、工芸センターで行っている製品試験の中から家具の耐久性試験を見学しました。

加工体験では家具作りの「ほぞ接ぎ」技術を取り入れた「ペーパーコードスツール」を製作しました。工芸センター職員の指導のもと、プレス機を使った組み立て、面取り作業、座面のペーパーコード編み、塗装を体験し、座面編みなど慣れない作業に苦戦していましたが、親子で協力しながら全員無事に完成することができました。

参加者からは、「木工について勉強出来て良かった」「親子で仲良く作業でき、とても良い体験ができた」「普段の体験教室と違い、工芸センターの役割や試験内容などの話を聞けて良かった」「子どもの想像力や視野が増えるようなイベントだと思います。大人向けのイベントにも期待します」といった声があり、旭川の木工産業を知ってもらう良い機会になったと思います。

体験の様子

製作したスツール

ものづくりサマーキャンプ

高校生に地元のものづくりを知ってもらう機会に

就業体験風景

旭川地域の高校生を対象に、ものづくり企業への就業体験を通して地域の産業への理解を深め、進路の選択肢の１つとして定着することを目的に、「ものづくりサマーキャンプ事業」を７月下旬と８月上旬のそれぞれ３日間、計２回実施し、市内の高校生 39 名が参加しました。

初日は、「工場見学ツアー」として、学校の先生など（10名）にも参加いただき、木工・鉄工の両業種を訪問しました。2･3 日目は、「インターンシップ」として木工・鉄工のものづくり現場に赴き、従業員の方と一緒に作業を行いました。短い期間ではありましたが、企業の代表者からの講話や実際の製造現場を目の当たりにしたことで、地元のものづくり企業への関心が高まった様子でした。

参加した学生からは「今回のインターンシップで学んだことを将来に活かしたい」、「企業の中を知ることによって社会人として必要なことを多く学びました」、受入企業からは「学生に教えることで、改めて自分たちの仕事により責任を持って取り組めるいい機会になった」、「体験している学生の姿勢を見て、社員たちも刺激になった」などの感想がありました。

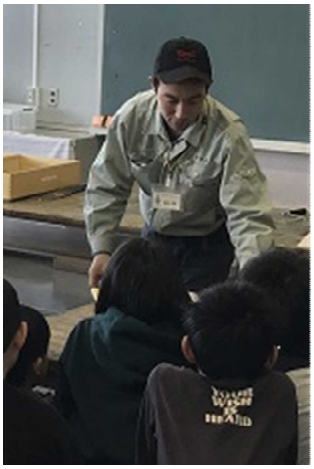
将来的に、地元のものづくり企業への就職を希望する高校生が増えるよう、次年度以降も旭川地域から近隣の高校へと範囲を広げ、学生と企業の架け橋となる事業に取り組んでいきます。

～受入協力～
木製品：株式会社アルフレックスジャパン
鉄工業：媚山鉄工株式会社、株式会社表鉄工、有限会社エス・ケーテクニカ　他９社

～見学協力～
木製品：株式会社カンディハウス、株式会社ウッドパーツ
鉄工業：株式会社アルブロ、株式会社長谷川工作所、株式会社ケンリツ、
株式会社エフ・イー

あさひかわ出前講座

ものづくりの楽しさを伝えるために


出前講座の様子

今年度より工芸センターの事業や旭川家具の素晴らしさを伝えるため、「あさひかわ出前講座」を始めました。西御料地小学校、東栄小学校、東町小学校及び啓北中学校の４校から講師派遣の依頼があり、工芸センターの職員がそれぞれの学校で出前講座を行いました。

講座の内容は、小学校の図工科の授業で、手工具や電動糸ノコの使用説明と実演を行いました。ほかにも、総合的な学習や課外授業では旭川家具の歴史の講義とワークショップ、学校が主催する催しでは、スツール作りの講座を行いました。

受講者は、合計で約 140 名を数え、参加者からは、「ものづくりって楽しい」「旭川の家具について勉強できた」などの声が多数聞かれました。また、出前講座がきっかけとなり、ほかの木工ワークショップに家族と参加した受講者もいたようです。

今後は、当センターの事業活動や旭川家具の魅力を発信する取り組みとして、更に内容を充実させていきたいと思っています。

旭川デザインウィーク

くらしとデザインの広場

今回で４回目の開催を迎え、初夏の一大イベントとしてすっかり定着した「旭川デザインウィーク」は、「インディビジュアル」をコンセプトに、６月 20 日(水)から 24 日(日)までの５日間、旭川デザインセンターをメイン会場に行われました。

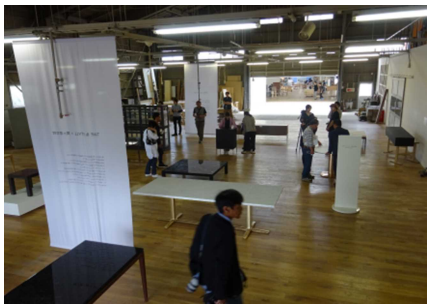
今回は、旭川家具の新提案を行う「旭川家具エキシビション」や「オープンファクトリー」などの主要企画はもちろんのこと、世界的プロダクトデザイナー喜多俊之氏と空間デザイナー成ヶ澤伸幸氏がデザインし、おもてなしにふさわしい心地よいホテル空間を提案する「ホテルスペースデザインプロジェクト」といった意欲的な新企画に加え、週末開催の市民向けイベント「ファクトリーツアー」や「親子木工教室」においては、工芸センターもお手伝いをさせていただき、最終的に、来場者数は 16,500 名を記録しました。

メイン会場には、アーティストユニット「デイジーバルーン」が手がけたスペシャルインスタレーションが登場し、約２万個の白いバルーンで表現されたスケール感ある幻想的な造形に、会場を訪れた来場者からは歓声が上がっていました。

次回の旭川デザインウィークは、2019 年６月 19 日(水)から 23 日(日)まで開催されます。

旭川家具メーカー9 社の作品が並んだ
「ホテルスペースデザインプロジェクト」

スペシャルインスタレーション
「ヒトトモリ」



「ファクトリーツアー」

22nd 旭川陶芸フェスティバル

自然にやさしく、人にやさしく

「自然にやさしく、人にやさしく」をテーマに、やきものの普及と愛好家の拡大、やきものが持つ人と環境に対するやさしさへの理解を深めてもらうことを目的として、旭川やきもの協会の主催で毎年開催しています。今年度は９月 22 日(土)・23 日(日)の２日間、旭川地場産業振興センターにて開催し、全道から 114 窯が展示販売したほか、様々な楽しい催しを行い、10,000 人を超える来場者で賑わいました。

会場風景

ろくろ実演では窯元の技に見入る来場者で人垣ができ、陶芸体験では、多くの親子連れが手びねりで思い思いの作陶を楽しんでいました。

チャリティー福袋は販売開始から数分で完売する盛況ぶりで、収益金は北海道胆振東部地震災害義援金として、日本赤十字社へ全額寄付しました。

毎年好評の特別企画展は、日々の食卓に彩りを添える飯碗と箸置きセットの展示「-めし碗×はしおき- いただきますセット展」を開催しました。伝統的なうわぐすりや技法を用いたものからユーモア溢れる一点ものまで、各窯元の自信作が目白押しの見ごたえある展示となり、目移りしながらお気に入りの作品を手に取る来場者の姿も見受けられました。

また、お子様に土に触れる楽しさを知ってもらうことを目的に、「小学生対抗 伸ばして積んでつんで競争」と題した、粘土を高く積み上げる競争を実施しました。小学生の無邪気かつ真剣な姿に、来場者からは拍手と声援が送られ、会場内は大いに盛り上がりました。

次回の旭川陶芸フェスティバルは、2019 年９月 21 日(土)・22 日(日)に同会場での開催を予定しています。

技能五輪全国大会

沖縄大会 家具職種受入研修

年に１度開催されている家具職種技能五輪全国大会に出場する選手の研修依頼があり、９月25日から10月30日までの約１か月間、工芸センターで受入研修を実施しました。選手は旭川地域の若手職人、荻野圭一さん(杏和建具)、倉橋司さん（プレステージジャパン)、三戸裕太さん（カンディハウス）の３名です。

受入れに際しては、旭川高等技術専門学院と連携し研修内容を組み立てました。研修では、競技本番を意識し時間内に課題を製作する実践的な練習方法を中心に行いました。また、大会経験者からの直接のアドバイスをはじめ、工芸センターに来所する熟練技術者からも技術的な指導を受けました。

全国大会は11月３・４日に沖縄県で開催され、競技は課題のキャビネットを11時間30分以内で製作するというものでした。３選手とも落ち着いた様子で着実に作業を進め、時間内に課題を完成させていました。制限時間内に完成させることができない参加選手が多数いる中で、結果は銀賞２名、銅賞１名と見事全員が上位入賞を果たしました。

今後も旭川の選手が技能五輪に参加する機会があると思いますが、工芸センターでは今回の経験を生かし、選手のスキルアップに貢献できるよう支援していきたいと思います。

練習風景

各地域の選手とともに

JR旭川駅「旭川家具ラウンジ」オープン

旭川家具をより身近に感じていただくために

平成30年５月８日、道北の玄関口であるJR旭川駅構内コンコースにおいて、旭川家具の実用展示、「旭川家具ラウンジ」がオープンしました。多くの人に旭川家具を知ってもらいたいという旭川家具工業協同組合の熱意を、JR北海道旭川支社に理解していただき実現したものです。

市民が通勤・通学途中で、あるいは観光客が、気軽に旭川家具を見て触って体感できる質の高い憩いの公共空間として、高い注目を集め親しまれています。

設置された家具は、椅子やソファー、テーブルなどをメインとし、国際家具デザインフェア旭川から商品化された家具のステージ展示や関連映像・説明パネルの設置などにより、旭川家具について、より一層身近に感じていただけるスペースとなっています。

また、これだけの規模の家具が駅舎に設置されることは全国的にも珍しく、観光客が旭川家具の魅力を知っていただく場にもなっています。

これからも、旭川の高いデザイン性と技術力で表現された木製品に触れていただくとともに、ものづくりのまち旭川の魅力を存分に発信するスペースとなることを期待しています。

旭川家具ラウンジ

製造業実態調査の概要報告

平成３０年度 旭川地域の木工・窯業業界調査

当センターでは旭川地域の木製品製造業及び陶磁器製造業の各業界について実態を把握するため、家具製造業及び建具製造業は毎年、工芸品製造業及び陶磁器製造業は隔年で、各企業への訪問や調査票の郵送により調査を実施しています。

今年度は、昨年７月から12月までの期間に、平成29年度における各業界の売上高の実績や現状の課題などを調査しました。

これらの調査結果をまとめ、各業界の総売上高と総就業者数を推計したところ、次のような結果となりました。

平成30年度調査（平成29年度実績）各業界の推計総売上高と総就業者数

	推計総売上高※1		推計総就業者数	
	今回調査	前回調査※2	今回調査	前回調査※2
家　具※3	150億円	144億円	1,437人	1,355人
建　具	21.9億円	20.0億円	137人	140人
工芸品※3	7.5億円※3	10.8億円 比較用前回データ (6.7億円)	125人	178人 比較用前回データ (125人)
陶磁器	1.1億円	1.1億円	60人	61人

※1 売上高には、消費税を含む。また、推計は速報値のため、今後変更する場合がある。

※2 前回調査：家　具、建　具　平成29年度調査（平成28年度実績）
工芸品、陶磁器　平成28年度調査（平成27年度実績）

※3 今回調査から、調査対象企業の見直しにより工芸品製造業の13事業所を家具製造業へ移行した。

今回の調査では、今まで工芸品等製造業としていた13事業所を木製家具製造業に移行しました。そのため、前回調査と単純な比較は出来ませんが、推計総売上高については各業界ともに増加傾向が見られました。また、総就業者数については、家具を除きほぼ横ばいという推計結果になりました。

家具製造業については、生産・販売動向の大きな変化は見られませんでしたが、高度な技術やデザインを活かした付加価値の高い家具の生産やＰＲに取り組んでおり、今後業界の活性化が期待されます。

建具製造業については、４年ぶりに売上高が増加しました。生産品目は事業所の売上規模が大きくなるに従い、建具の比率は下がり、造作家具の比率が高まる傾向にあります。公営住宅などで建具の需要はあるものの、今後も市場動向に注視していく必要があると思われます。

工芸品等製造業は、年間売上高や一人当たり売上高は上昇していますが、「材料価格の上昇」による材料費等の値上げ分を製品単価に上乗せすることが出来ず、利益は減っているという意見が多く聞かれました。

陶磁器製造業については、生産額、就業者数ともに前回と変わらず横ばいとなっていますが、前回調査と同様に小物など高付加価値の製品が増加する傾向が見られ、道外への販売比率が増えています。

各業界の聞き取り調査では共通して、「熟練工の高齢化」や「人材育成」、「施設の老朽化」などの課題があり、これらは、個々の企業で取り組むことが難しい点もありますので、どのような方策があるか旭川地域全体で考えていく必要があると考えています。

次回は、2019年の秋頃から家具及び建具の業界を対象に調査を予定していますので、お手元に調査票が届きましたらご協力くださいますようお願いいたします。

なお、今回の調査結果の詳細につきましては、当センターまでお問い合わせください。

人事異動報告

～平成 30 年度配属職員の紹介～

前回の工芸ニュース vol.81（2018 年３月発行）から、次のような職員の異動がありました。

＜転出＞	三浦　雅仁	＜転入＞	有馬　有志
	山下　友子		成田　万里子
	逸見　昌子		柴　　安澄

※　いずれも４月定期人事異動

■有馬　有志（ありま　ゆうし）　市立旭川病院 経営管理課から異動

昨年４月の人事異動で、前所長の三浦の後任として配属いたしました。どうぞよろしくお願いします。私は、今回が初めての所長職ですが、10 年前に当時商工観光部の産業振興課へ配属されておりましたので部としては出戻りということになります。以前は木工芸や窯業には関わっておりませんでしたが、旭川地域のものづくり産業とは６年にわたり関わらせていただきました。今回はその下地を踏まえながら、家具・建具や窯業・クラフトの皆様とともに、地域に貢献する工芸センターを目指して、毎日少しでも改善努力していく所存です。
どんな小さなことでも構いませんので、ご指導やご意見を賜り新たな工芸センターを作り上げていきます。今後とも叱咤激励をお願いいたします。

■成田　万里子（なりた　まりこ）　西神楽支所 市民係から異動

昨年４月の定期人事異動で西神楽支所から異動してまいりました。私は長年、窓口業務や庶務業務を行ってきたため、工芸センターでの仕事は慣れないものも多くありますが、毎日新鮮な気持ちで業務にあたっています。
実態調査の際には、多くの方々がご多忙にもかかわらず、工場や工房内を快く案内していただきました。作り手の方の思いを聞く貴重な機会を得て、今まで以上に家具やクラフトが気になる毎日を過ごしています。慣れないことも多く皆様にはご迷惑をおかけしますが、これからもどうぞよろしくお願いいたします。

■柴　安澄（しば　あずみ）　水道局 経営企画課 契約係から異動

この度、水道局から工芸センターに異動になりました柴と申します。
工芸センターに来てから貴重な経験を色々とさせていただいています。改めて旭川家具のデザインや技術力、品質の高さに驚いています。最近ではお店に入ると、店頭で販売している工芸品や使用している家具などが今まで以上に気になるようになりました。
「ものづくり」の世界はとても奥深く、「ものづくり」をされている方々をとても尊敬しています。
今後も関係業界の方にお世話になる機会が多いと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

工芸ニュース　第 82 号　発行年月／平成 31 年 3 月

発行／旭川市工芸センター
〒078-8801　旭川市緑が丘東１条３丁目１番６号 旭川リサーチセンター内
TEL：0166-66-1770　　FAX：0166-66-1776
E-mail：kougeicenter@city.asahikawa.lg.jp
HP：http://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/kurashi/364/365/369/d053192.html